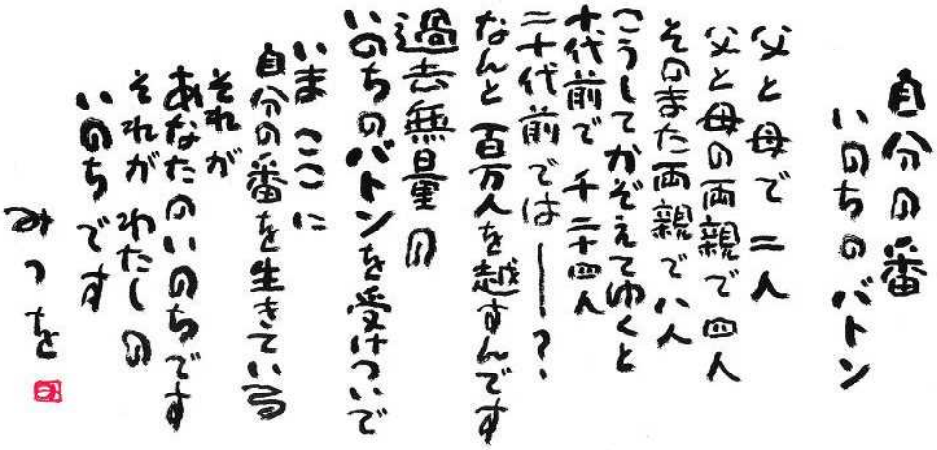
GO FLY

新北島中学校
学年通信 No52
２０２０．０９．１７．発行

# 『命を考える日』にちなんで

みなさんは毎日、希望をもって楽しく生活していると思います。「〇〇高校へいきたい！」「〇〇の仕事をしたい！」など、将来に大きな夢をいだいていることと思います。そのような夢が突然断ち切られたとしたなら、これほどくやしいことはありません。

朝、眠い目をこすって起きる。顔を洗って、朝食をとって、歯をみがいて、トイレにいって、着替え、学校にでかける。友だちと話をいっぱいして、授業も聞いて、帰宅してからゴロゴロして、夕食をとって、お風呂に入って、しかたないから宿題もして、きょうもやっぱりＬＩＮＥをしすぎたかな？とちょっと反省しながら、それでも友だちとやりとりをして、眠くなってきたところで眠りにつく。

かわりない毎日。ワクワクするような冒険に遭遇しないかなって思うけど、あり得ないのもわかっている平凡な毎日。退屈かも知れません。あなたと友だちの間で、ときには意見の対立があるように、人は一人ひとり、趣味も、生き方も、感性も、生活のリズムも少しずつちがっています。ですから、一人ひとりの退屈な毎日とは、じつは一人ひとりのちがった毎日のことなのです。それが出会ったり、離れたり、すれちがったりするのが「日常」です。趣味も考えていることもちがうそれぞれの時間が、それでもいっしょに流れていて、ときどき交わったりもする。一人ひとりには平凡で退屈な毎日ですが、それがあるからこそ社会全体は生き生きとしてくるのです。

わたしたちの命は、これまでに父と母で二人、父と母の両親で四人、そのまた両親で八人、十代前で千二十四人、二十代前（五・六百年前）では百万人、数えきれない連綿と続くいのちのバトンが受けつがれてきたおかげで、今の自分の命があるのです。その中のたったひとりでも欠けていれば今の自分は存在し得なかったのです。とてもふしぎなことであり、奇跡であるともいえます。自分の命の尊さを実感できたならば、同時に他者の命も自分とまったく同じ、かけがえのない尊重すべきものであるということに気付きます。あらためてこの命の尊さについて、考えてほしいと思います。